

それゆけ！ としよかんだより



2011年10月

第54号

発行所

高野山大学図書館

閲覧室

『図書館の共和国』

文学部准教授 山脇 雅夫(哲学)

学生時代、私の下宿にはエアコンがなかった。しかも戦前に建てられたというその下宿は、夏は風のように空気が動かないのに、冬は隙間風が通り抜ける不思議な建物だった。そのため、私の部屋は、夏は外より暑苦しく、冬は外と同様に冷え込んで、まるで毎日我慢大会でもやっているようだった。で、我慢できなくなると私は図書館に避難した。冷暖房完備で、無料で利用できる図書館はまさに極楽だった。私は図書館に日参した。

お気に入りの場所は、辞書・辞典が集められているレファランス・コーナーだった。オックスフォードの英語辞典やグリムのドイツ語辞典、ロベールのフランス語辞典、諸橋の大漢和辞典など、それぞれ何十巻もある辞書に囲まれていると、自然とテンションが上がり、「勉強するぞ」という気になった。

しかし、もともと集中力がないので、すぐ勉強に飽きて、館内散策ばかりしていた。そうして、図書館には主というべき常連の人々がいることに気付いた。遭遇率が高かったのが、机の上に法律書をうず高く積み、細かい字を書きつけた二つ穴のリーフノートで勉強している、司法試験受験の人たちだった。なぜかこのタイプの人たちはみな二つ穴のリーフノートを使っていた。法学部の伝統なのかもしれない。一時これに憧れて真似しようとしたことがあったが、定着しなかった。中にはずいぶん年上と見える人もいて、うわさに聞く司法試験の過酷さを感じさせた。恐ろしいことというか悲しいことというか、その中の一人の方とは13年ものお付き合いになった。

館内散策の途中では、書架に置かれた専門外の本にも手を伸ばした。よく読んだのは、本のあとがきや、全集に付いている月報である。短いので気楽に読めるし、作者の肉声が出ている感じが好きだった。民法学の泰斗、我妻栄の『民法案内』にある「私の試験勉強」というのも、そんな風にした。我妻先生が中学時代ずっと抜群の成績だったので第一高等学校に受かるのではないかと周囲から期待されたという文章の欄外に、「僕と一緒にだね、〇〇年入学」「僕も。××年入学」という書き込みがあるのを見て、「法学部生って歪んでる」と思ったりした。

図書館にはいつも人がいた。常連の人はみんな静かに本を読んだり、書き物をしていた。そういう中にいることが好きだった。試験前になって満席になり、ノートを手にした元気な人たちが駆けずり回って変な活気が出る時期にも、それに文句を言う楽しみがあったが、やはりいつもの静かさが好きだった。家で一人で本を読んでいるより図書館にいるほうが落ち着いた。

私は人があまり得意でない。気を使いすぎて疲れてしまうことが多い。そんな私にも図書館は心地よかった。一緒に静かな空間を守っているというかすかな連帯感のようなもの、大げさに言うところの公共性の感覚があったような気がする。映画館や劇場もそうだが、見知らぬ者同士が暗黙のうちに協力しあい、互いに気持ちのいい空間を作り上げるということは、私たちの社会にとって大切なことだと思う。私にそれを教えてくれた場所が図書館だった。

本学図書館の閲覧室はシックな感じで私は好きだ。書庫にいると異世界に入り込んだような感じがする。ただ、夏場にクーラーがないのが玉にキズである。

図書館の蔵書印 (5)

図書館員 木下浩良

大正15年(1926)4月2日、本学は単科大学に昇格しました。全国で37番目にできた旧制大学でした。時を同じくして本学同窓会は、図書館建設に乗り出します。同窓会会長は学長の高岡隆心師(明王院主)で、同師を先頭にして勧募のお願いをしたと伝えられています。同師の顔を見るなり、何も言わずに1万円もの寄附を申し出た山内寺院もありました。高額な寄附の申込としては、金剛三昧院・清浄心院・常喜院・遍照光院が各1万円で、立江寺7000円、明王院5000円などで、数ヶ月のうちに17万円もの浄財が、同窓会の下に集まりました。

東洋一と称された現在の図書館が完成するのが、昭和4年(1929)のことです。経費は25万円(15億円に相当)。開館式当日は、本学学生による提灯行列や演劇会が行われ、花火が打ち上げられ音楽隊の演奏と全山挙げての祝賀となりました。

そして、先の戦中戦後の混乱をくぐりぬけて、本学は現在に至っています。図書館の蔵書印は前号で紹介した専門学校時代のものが旧制大学時代から、戦後の新制大学時代に至るまで使用されています。昭和50年ごろになり、書体を前のものに似せて掲載の蔵書印へと変更しています。本学図書館の百年以上にわたる伝統を未来へつなごうとした、先輩諸師の心意気を垣間見るようです。



完成間近の本学図書館

『写真でみる本学図書館建設』③

図書館の設計は、「関西近代建築の父」と称せられ、国会議事堂の建設にも関わった武田五一博士で、昭和3年(1928)10月28日に完成します。当局への引渡しや、図書移転を行い、翌年(1929)5月16日に開館を迎えます。その後、書庫の増設等を経て現在に至ります。創建当時のままの現図書館は、平成10年(1998)には、国の登録有形文化財にも登録されました。



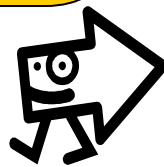
蔵書印

2011年10月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

就活関係の本が入りました!!「本学関係者の出版物」コーナーの下に開架しています。

図書館通信



「就活のやりかた いつ・何を・どう? ぜんぶ!」実務教育出版

請求記号 841/シ/490 ID 000128684

「履歴書・エントリーシート自己PR・志望動機の極意」森吉弘著

請求記号 841/リ/11 ID 000128686

「就職力」斎藤孝著

請求記号 841/シ/491 ID 000128685

2011年11月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

ミニ企画コーナー

「本屋大賞受賞作品」コーナーを設置しました。本屋さんが薦めたい本10選です。中には映画化された本や今秋ドラマ化される本も入っています♪

「本学教員推薦図書」コーナー10月は、井上ウィマラ先生と武内孝善先生です。どうぞご利用下さい。

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町高野山385

高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835

Fax:0736-56-5590

E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp

(編集後記)

「図書館の蔵書印」と「写真でみる本学図書館建設」は今回で最終回です!

(石原)

切り取り